

慢性疾患としての 歯周病へのアプローチ

患者さんの生涯にわたる QOLに貢献するために

“歯周病は治るのか？”

患者さんとの協力，ラポールが形成されれば，「歯周病は治る」という時代になっている。

生涯の主治医として，患者さんと歯科医療従事者の二人三脚による新しい治療スタイルを確立するために必要な知識を網羅した待望の書！

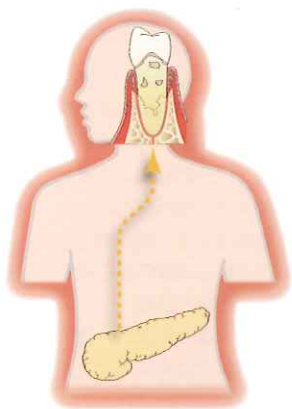
患者さんがバイオフィルムをコントロールできる環境を作り出し，歯周病を

コントロールした多数の症例を提示して，感染症と生活習慣病としての側面をもつ慢性疾患である歯周病の基礎と臨床の実際を，全身疾患との関連も含めビジュアルに解説。

Contents

- 序章 歯周病は治るのか
- 第1章 歯周病はなぜ慢性化するのか
- 第2章 慢性疾患の構図からみた歯周病の再発見
- 第3章 病因診断に基づく治療計画の立案
- 第4章 病因が除去されなければ治らない
—歯周病を治す方法論
- 第5章 基本治療の限界を超えた歯周組織の問題に，
どのように対応するか？
- 第6章 その歯は抜くべきか？
- 第7章 治療？ 手入れ？ 健康維持のための
プロブレム・コントロール
- 最終章 生涯の主治医として

医歯薬出版株式会社

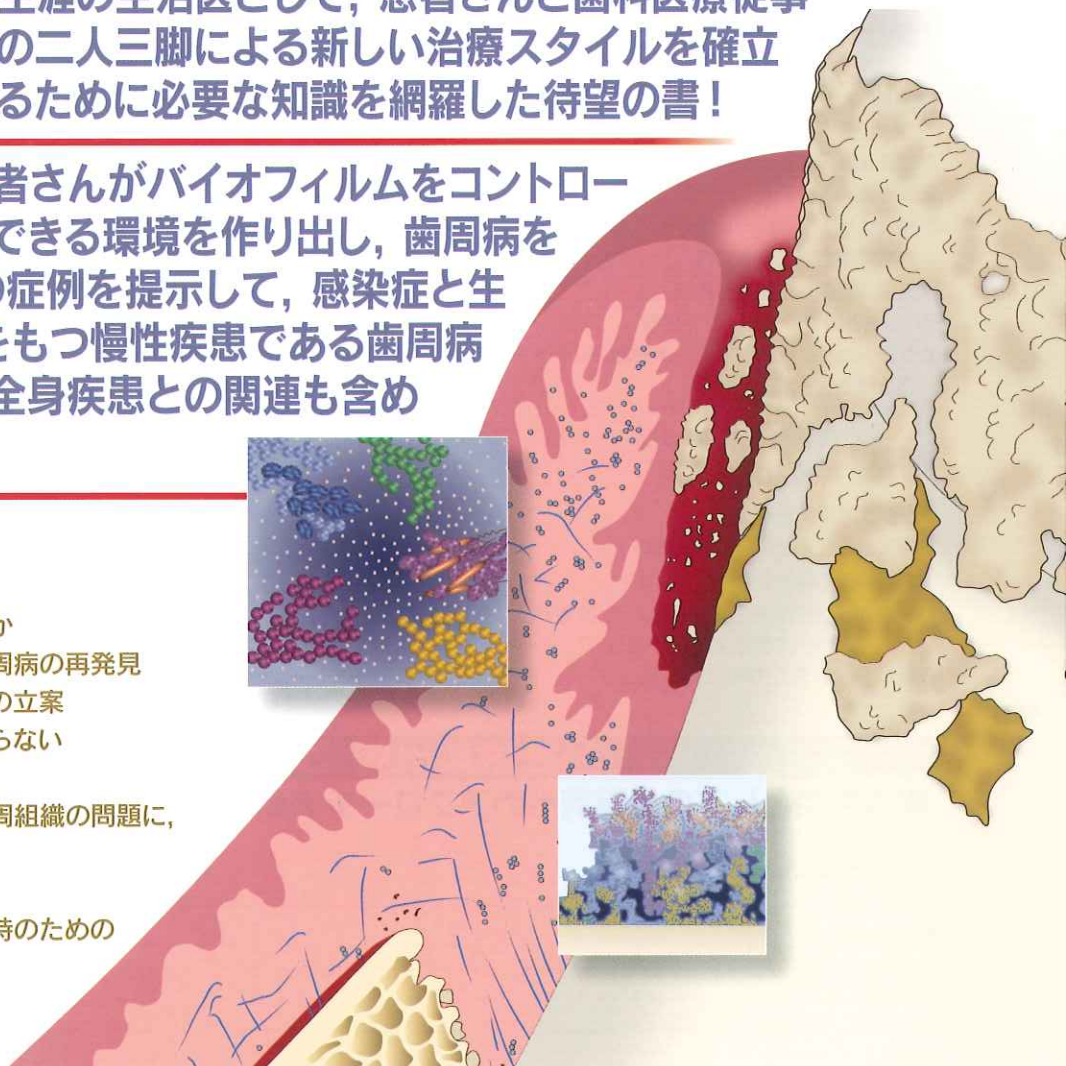
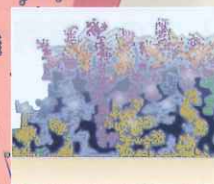
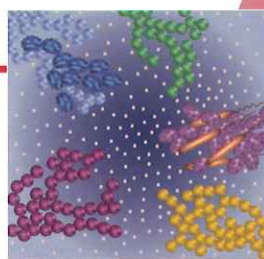


野口俊英 編集
林潤一郎

■A4判/248頁/オールカラー

■定価 (本体 9,000円+税)

ISBN978-4-263-44411-5



CONTENTS

(抜粋)

1 序章 歯周病は治るのか

- 2 治癒(治る)の定義
- 3 まだまだ少ない歯周病治療の受診者数と今後の歯科医師数
- CASE-1 軽度限局型慢性歯周炎患者に早期の歯周治療介入を行った症例
- CASE-2 歯周基本治療後にフラップ手術を行った症例
- CASE-3 歯周基本治療後に再生療法を行った症例
- CASE-4 補綴処置前の処置として、歯周基本治療後、歯周形成手術を行い補綴処置を行った症例
- CASE-5 著しい根分岐部病変を伴い保存不可能と思われた歯に徹底した病因除去療法を行い長期に残存した症例
- CASE-6 抜歯の時期を考慮して矯正・補綴治療を行った重度侵襲性歯周炎患者の症例

第1章 歯周病はなぜ慢性化するのか

- 1 ビジュアルストーリー
- 2 歯周組織破壊のメカニズム
- 3 多因子性疾患としての歯周病
- 4 慢性化を導くバイオロジー

第2章 慢性疾患の構図からみた歯周病の再発見

- 1 ビジュアルストーリー
- 2 慢性疾患とは何か
- 3 慢性炎症—慢性疾患の分子的共通基盤
- 4 自然炎症としての歯周病
- 5 血管の炎症からみる歯周病
- 6 ペリオドンタルメディシン再考
- 7 サイトカインを制御する～慢性関節リウマチの治療法から得るヒント

第3章 病因診断に基づく治療計画の立案

- 1 ビジュアルストーリー
- 2 病因論の変遷と病因の診断戦略
- 3 病因除去に向かうディレクション
- トピックス: 歯肉炎の病態で来院させることの重要性
歯肉炎の放置は歯肉炎へと進行していく
- トピックス: 治療計画の立案について、私はこう考える

第4章 病因が除去されなければ治らない—歯周病を治す方法論

- 1 ビジュアルストーリー
- 2 患者自身が行う主体的病因コントロール—最大の病因は患者の意識
- トピックス: 8020運動の活用
- 3 プロフェッショナルによる病因除去
- CASE-1 軽度限局型慢性歯周炎患者に早期の歯周治療介入を行った症例
- トピックス: プラキシズムへの対応

第5章 基本治療の限界を超えた歯周組織の問題に、どのように対応するか?

- 1 ビジュアルストーリー
- トピックス: 歯周治療において対処すべき歯周組織の問題とは何か?
- 2 歯周基本治療後に残存した歯周ポケットへの対応
- CASE-2 歯周基本治療後にフラップ手術を行った症例
- CASE-3 歯周基本治療後に再生療法を行った症例
- トピックス: 炎症性歯周ポケット上皮の取り扱い
～歯周ポケット搔爬術を再考する
- 3 歯周炎に関連する歯周組織の形態的問題への対応
- CASE-4 補綴処置前の処置として、歯周基本治療後、歯周形成手術を行い補綴処置を行った症例

第6章 その歯は抜くべきか?

- 1 ビジュアルストーリー
- 2 抜歯基準としての一提案
- トピックス: 初診時での抜歯判断～本質的には「抜くべき歯」はない
- CASE-5 著しい根分岐部病変を伴い保存不可能と思われた歯に徹底した病因除去療法を行い長期に残存した症例
- トピックス: オーラルリハビリテーションの限界
～歯の価値の多面的評価
- CASE-6 抜歯の時期を考慮して矯正・補綴治療を行った重度侵襲性歯周炎患者の症例
- トピックス: 歯周治療～抜歯の基準
抜歯基準について私はこう考える①
- トピックス: 米国における抜歯判断
抜歯基準について私はこう考える②

第7章 治療? 手入れ? 健康維持のためのプロブレム・コントロール

- 1 ビジュアルストーリー

- 2 「健康管理」としてのメンテナンス、「治療行為」としてのSPT—長期的な身体の変化に対応する継続的加療—
- 3 リコール間隔はどう決める?
evidenceに基づくリコール間隔の決定方法
- トピックス: 再考、「治癒」
～4mm以上の歯周ポケットの有無で判定される病状安定、治癒とは

最終章 生涯の主治医として

- 1 治療スタンスのシフト
- 2 長期症例を振り返る—治療結果と患者の声
- CASE-7 炎症性因子と外傷性因子の徹底した除去により垂直性骨吸収(SJ遠心)の改善と全顎にわたる付着の喪失を防いだ長期症例
- CASE-8 歯列不正の存在する症例に矯正処置を施さず徹底した歯周基本治療で付着の喪失が防がれた長期症例
- CASE-9 広汎型侵襲性歯周炎で、歯周矯正および歯周補綴まで行い4歯のみの抜歯で咬合を回復させた長期症例
- CASE-10 SPT期間中10年ほど家族の介護で不十分な口腔管理に対しPMTTCで対応した長期経過症例
- CASE-11 歯周基本治療後に下顎前歯部に口腔前庭拡張術(Edlan-Mejchar法)を行った長期経過症例
- CASE-12 歯の病的移動を伴う慢性歯周炎に対して歯周基本治療で対応した長期経過症例
- 3 国民は口腔の保健を守るための行動を起こす必要がある
- トピックス: 口腔の健康とQOL～ニーズとダイヤモンドの違い
- 4 おわりに ～生涯の主治医として

執筆者一覧(執筆順)

野口俊英	相野 誠	加藤 一夫
福田光男	惣ト響子	山本弦太
石原裕一	三谷章雄	池田雅彦
亀井英彦	松原達明	吉成伸夫
坂野雅洋	成瀬桂子	大杉和司
菊池 毅	松下健二	若林健史
杉村 達	山下明子	祖父江尊範
稲垣幸司	西村英紀	西田英作
林潤一郎	船越栄次	花田信弘
小出雅則	菱川敏光	

医歯薬出版 ご注文承り書

慢性疾患としての歯周病へのアプローチ 患者さんの生涯にわたるQOLに貢献するために () 冊

ご指定納入店〔

〕(納入店ご指定の場合)

直送希望

(代金引換のみのお取り扱いとなります。一回の発送につき送料200円+代引手数料250円が別途かかります。)

●お名前

●ご住所(〒 -)

●TEL.

★必要事項をご記入の上、FAX. 03-5395-7633にご送信ください。★弊社ホームページ <http://www.ishiyaku.co.jp/>からもお申し込みいただけます。医歯薬出版株式会社 〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL. 03-5395-7630